

読書ノート

● ボロニヤ紀行 井上ひし著 文芸春秋社
イタリアの町ということしか知らなかった。ボロニヤ。第二次大戦時、ナチストイタリア軍から市民ハルチサンの力でやか町を守ったあの町だったのだ。井上ひしはこの古くて新しい町に深い関心を持って訪れる。ここはすごい町だ。国や行政に頼らずボロニヤ方式によって人か生きていこうと大切なものを守り、活気ある町を作っていく。「景気が未来か、景気が生活の質か、われわれはどうを選ぶのか」。内子・五十崎町も町の人の方で大切なものを守っていま、景気に走る日本の国民である私たち。大切なものは何?

● アンソロジー おやつ 写真・岡本真菜子
内田百閒がはじめてシェーファーを食ったのは明治40年頃。私は昭和24~5年頃、病弱な私に父はじつやうシェーファーを買ってきた。大きくなりからシェーファーはもう食べなくなかった。開高健の「ベルギーへ行った女よりヨコラ」、武田百合子の「キャラメル」、又住昌之の「おはせ」と兵隊など、学科練に行きた兄を訪ねたとき、桂香の特大のおはせをいつも九つも食べた兄、おやつにまつわる思い出を誰もかれに教めていい。石井桃子のことば 中川李枝子著 とんぼの本
—かつてあったいいことは、どこかで生きつつ—173—
どうぞ手にとってご覧下さい。

キーリと牛肉の火さめもの

すぐでできる韓国風の一品

(キーリ 2 杯 — うす切り、塩少々をふってしなりしたらおとす。) 塩大さじ $\frac{1}{2}$ しづかりほほこ

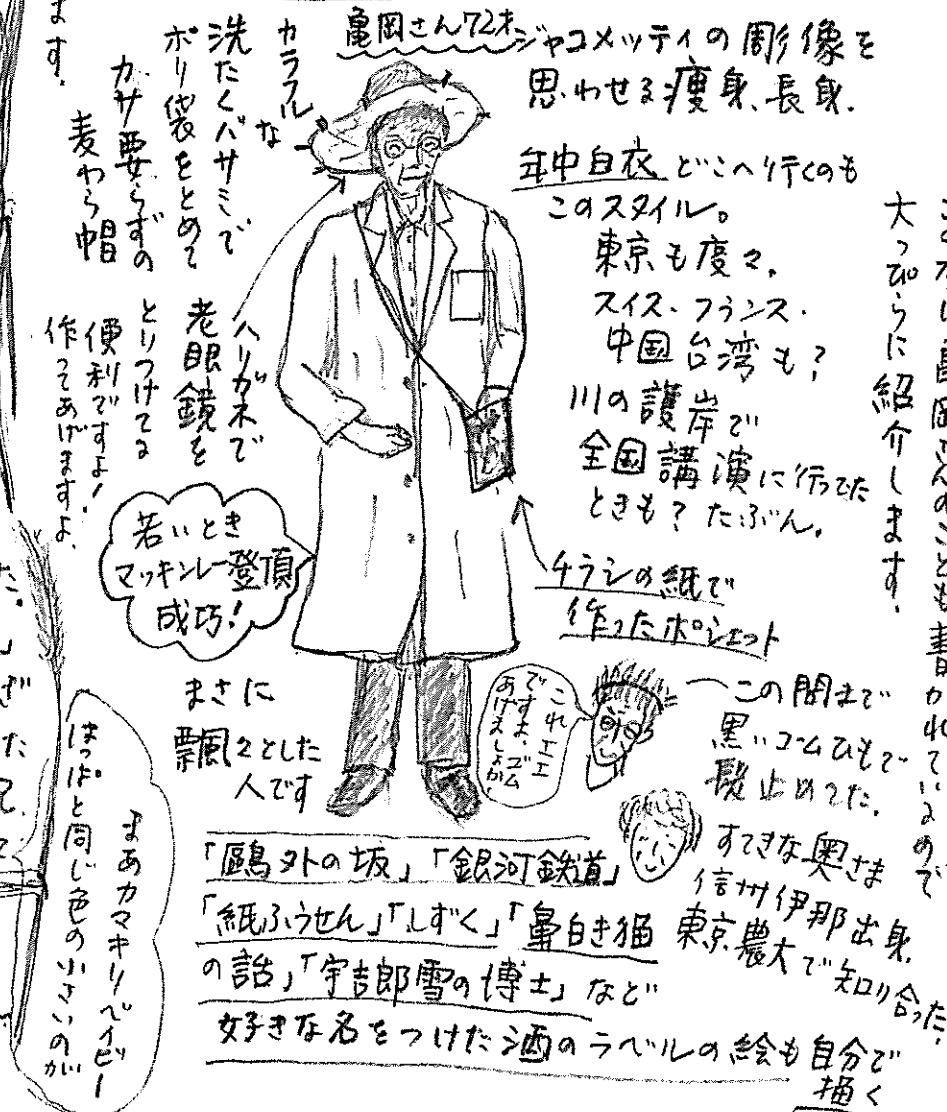
牛肉(赤身) 60g — みじん切り、Ⓐをまぜる。

Ⓐ 大さじ $\frac{1}{2}$ 小さじ 1

① フライパンを熱し牛肉を火さめ
さめ 小さじ 1 取ります。 大さじ $\frac{1}{2}$

ネギみじん切り 大さじ 1 ② コマ油を熱しキーリを強火
ふろしじんにく 小さじ $\frac{1}{4}$ でさと火の塩少々をふって
コショウ 少々 牛肉を合わせてませ。コマを
コマ油 小さじ 1 ませる。

半量コマ 大さじ $\frac{1}{2}$



けやき通信 2014年7月 NO.253号

—錦織佳代子—

六月、私たちは結婚40周年を祝ふました。印をさまで、仲人役は山の会の仲人さんと亀岡さんと。

6/28, 29日 (10人)
いつもの元山仲間内子の「月の家」に集う

村並み保原の本五冊を並んで見てました。
亀岡徹さん、5月に出版されたばかりの本五冊を並んで見てました。

林まゆみ著
亀岡徹
内子町亀岡文淑の反骨の公務員
亀岡徹さんは、亀岡酒造の九代目。地元の米、地元の水、地元の空気から醸し出す酒造りを1711年。今は合併して内子町となつた五十崎(いがいざ)町の出身。小田川を「近自然工法」によって護岸するように、住民の中心的立場として活動してきた人です。酒造家は发酵学を手がける科学者でもある。白夜を着て飄々と現われた。

フィンランド流 収納術 錦織可也

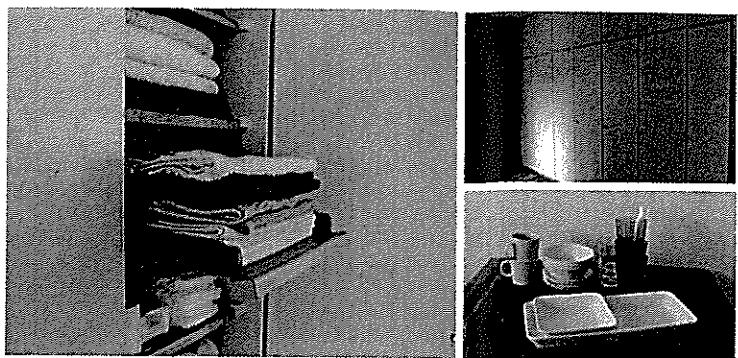
夫の故郷であるフィンランドに移り住んで7年。3歳になつた息子もわんぱく盛り、毎日が慌ただしく過ぎています。

私たちが住んでいるPihlajamäki(ピヒラヤマキ)地区は、首都ヘルシンキ市内の北に位置し、1960年代、岩場や森などありのままの自然を残しながら住宅開発された地域です。森の中に集合住宅が距離を保ちながら程よく並び、現在は建築保護区として国際的に認められています。動植物と共存し、自然を近くに感じて子育てができる環

境。厳しい冬にもどうにか耐えられ、住空間の居心地のよさは生活に欠かせない要素となっています。

外壁の補修工事はするものの、この地域すべての建物の外的形状は、つくられた当時のまま。室内は、個々でリノベーションしたり、そのままの雰囲気を楽しむ人も。

フィンランドの住宅は一般的に、個人の住空間とは別に住人たちの共有スペースがあるのが特徴です。ここ地下にも、主食であるじゃが芋をはじめ、根菜類を貯蔵しておくための倉庫が



収納棚には、タオル、洋服、布団、DVD、掃除機、トイレットペーパーや洗剤のストック、材木(タバニさんは木工職人)、あらゆるものが入っています。

個々の住人のために設けられ、当時から共有スペースは必須であったことがうかがえます。その他、共同で使うサウナや洗濯機・乾燥機が1階部分や地下に備えつけられ、使用料を払って時間を使っています。また駐輪場もあり、日本なら各家庭内にあるものを、共有スペースで捕うという発想です。

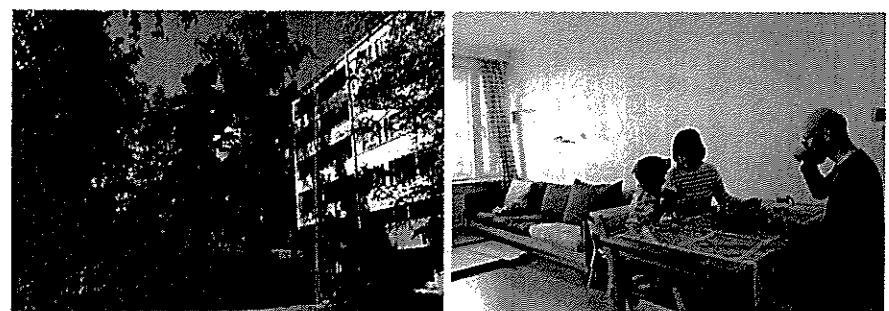
土地に余裕があるところでは、機械が揃った木工室、機織り部屋、暖炉部屋や住人のクラブルームなど、趣味や交流の場も設けられています。

重ねて収納できる食器類

住居内は、壁一面に収納棚やクローゼットがつくり付けられていることが多いようです。奥行きが60cm程度なので、ものの出し入れがしやすく使い勝手がよいと感じます。フィンランドの収納用品や食器は、重ねてコンパクトに收

納できるデザインが多く、棚に収めやすいのが特徴。また、細かいものは、かごなどに分けて入れ、棚やクローゼットに収納するので、部屋がすっきりとした印象に。そして、心地よい空間がなくならない程度に、テーブルセットやソファなどの大型家具を配置します。

ここ最近の我が家は、息子の遊ばなくなつたおもちゃや着られなくなつた服などで、ついものが増えがちですが、Kippis(クリッピス)文化が進んでいますので、売つて次の人を使つてもらつようにしています。息子の洋服はほとんどKippisで買ひ、また他の誰かに使つてもらつという、新品を買って捨てるのではないフィンランド流は、環境にやさしく、気にいっています。持ちものを意識しながら、地下の倉庫にまとめて保管し、Kippisにてつて行く日を待つっています。



右／夫のタバニさんと息子の光太郎くんと居間で
左／フィンランドの風景に合うようにつくられたPihlajamäki地区